

○論破は会話ではない

相手を言い負かすことはカッコいい、そんな風潮になっていますが… (写真: mits/PIXTA)

最近、子どもたちがやたらと「論破！」と言っていますか？

2022年末、小学生に人気があるとして「それって、あなたの感想ですよ」というワードが話題となりました。これは「論破王」と称される、匿名掲示板「2ちゃんねる」の創業者で美学家の「ひろゆき」と西村博之氏の発言からきています。子どもたちが熱心にいう「論破」について、親はどのようにとらえたいのでしょうか。

本稿は、政治学者で、前著『政治学者、PTA会員になる』が話題となった岡田憲治氏の最新刊『教室を生きるひる政治学』より、一部抜粋・編集のうえ、お届けします。

「論破」とは、勝ち負けとは別次元のもの

いま若い層に人気のある、そう、えーと「ともゆき」さんだっけ、あの人が言ってる「論破力」というのが何なのかを考えてみようと思う。

この言葉については、いろいろな話の流れで、売り言葉に買い言葉というやりとりになって出てきたり、まさに若い人たちが、面白くなってあまりいろいろ気をつかわずに「はい論破！」なんて使ったりするから、もともとどういうつもりで「論破！」なんて言ってきたのかもだんだんわからなくなっている。

説明できるかな？

25

**会話は勝ち負けじゃない
相手の意見を聞いて受け入れよう**

誰だって、自分の意見と違う意見を言われたら、腹が立つもの。
でも、議論をしているときに相手の人格を攻撃したり、相手が意見を言えないように追い詰めるのは暴力と同じだよ。「論破」して言い負かすなんて会話じゃない。
会話のゴールは勝ち負けじゃない。相手の意見を受け入れたら負けというわけではないんだ。

「たしかに」「なるほど」「〇〇はそうかもじゃないね」そんなふうに、まずは相手の意見を聞くこと。
納得できた部分は受け入れて自分の意見を交えられるようになる。
これは違う意見を取り込んでパワーアップしたということなんだ！
互いの意見の納得のできるころを取り入れて、一番いい結論を作っていくこと。

「論破する」コンテンツが溢れています。政治家同士が論戦を交わすことは必要なことですが、それさえも建設的かどうか疑問に思うことも少なくありません。

ネットに影響されて「論破！」を目指す子が少なくないようです。東洋経済オンラインでも記事になっています。

←「やたらと「論破！」と言う子に伝えたい"大切な事"」 <https://toyokeizai.net/articles/-/673126>

←『先生は教えてくれない！ クレヨンしんちゃんの自分の気持ちを伝えよう！』（臼井儀人：著、高田ミレイ：イラスト/双葉社）

上記の書籍の中でもとてもいい記述を見つけました。「一番いい結論を作っていく」とつまり、考えを深めたり広げたりするための手段として議論なり、討論なりがあるということ。

そこで、授業のテーマを「**建設的に**議論しよう」としました。「一番いい結論」を「作る=建設」する。

そのために、一つテクニックを示しました。国語の読解を深める時間にも同じことを言い

話し方のポイント

主張・根拠・理由

私は〇〇だと思いま

根拠

のデータによると、

〇〇%で〜となって

います

理由

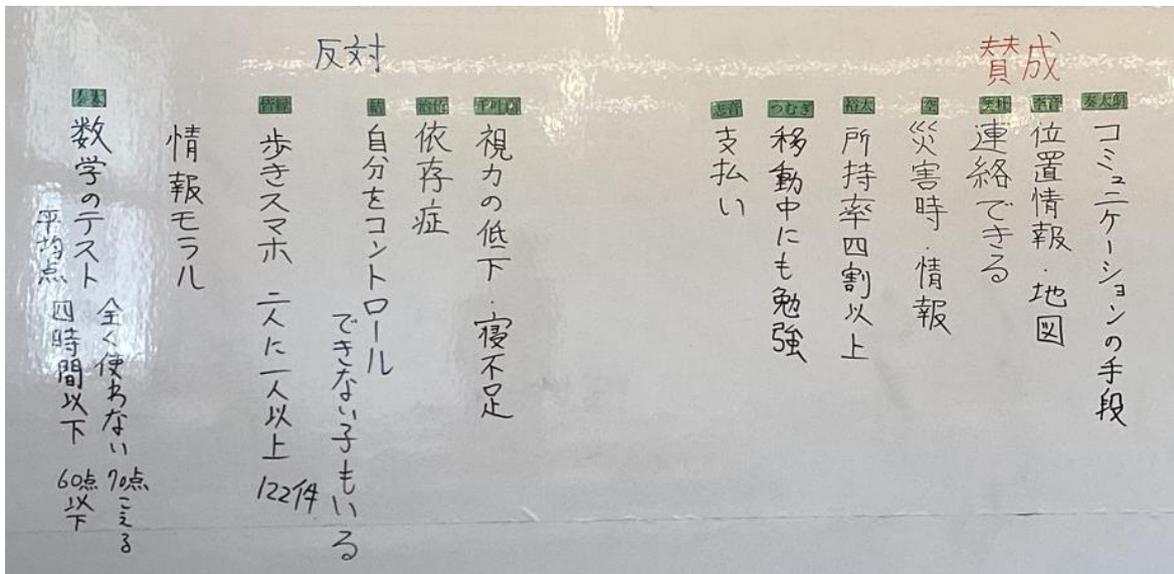
ということは、〜だと

と考えられるからで

す

ましたが、議論を空中戦にしないためには「主張・根拠・理由」に分解して考えるといいことです。

議論が進むにつれ他の人の発言に対して意見を考えていくので、いつも上手くいくわけではありませんがとにかく練習です。



45分の中で、最初の説明をして、根拠を集めて議論だったので少し時間が足りませんでした。「まだやりたい～」という子たちが、次の Art に移動中にも議論を続けていました。

☆お便りフォームはこちら☆

<https://forms.gle/ndGkDHTYcmB1bWyU9>

